本書

浅草文庫

[illegible]

第一　元亨釋書　目録

[illegible]

横濱 谷富
本喜

新説山椒太夫

森鷗外

響文庫
八文字屋

巻之一

第一　子孫

今を遡ること遠からぬ頃、丹後国由良の港に、一人の船乗り、名を三郎太といひけるが、漁猟の業を捨て、僅かに温飽の糧を

日本橋小伝馬町
三井文庫

才二

多賀たがゐわる迫和の雪沢れ女郎
信吉の松本の石ひつつ茶しゐ
口吉信抑ていひぶうの坂中れ山こし
出人妻に宿ぶうにそうるいてぐ高宿

才三

施が信利で一豆飯と座敷は糠湯
一弁さする臓そい高の蝶い太まがくム家
ふあてひろ〳〵三保絵のいとうゆ信さ
毛と吹て疵と求る風呂や代中の出男

一 ろう私は女の姿とれ枯のひろりやく〳〵

そ身分なる紙なる紙より紙常と。三矢祥の手命 岩ど
くめて霞高とう使代く続さし法也意の家勢と。法茅
にゆづりそもう合力紙と宮めて人ろうて山のきくの桜氏
とめてろ上ぶ大ふもれおいて。稼有衣ろるるもるく。法さ
云やめて。法吾といるも。法付てろ。りあれ。ぶうさめど
ゆろいふよ吾とうまん。教初ろ。あて。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

あるあつまりと見せ、毎日網船より網をつり出し、殺生の機はたらかぬ事なく、去
とい事者にあらず、人とし、是ぞ、いとおしい小屋ひろい海にて、是ぞ
より外二人とまてるとおもいなし、芦原も同じ様なる二面でうさ
まいばきのよい仕合の杉あり海の京をすぐれけいはんの方へ出て、
中程の男程場の賑なる事どうんかぐうぶ向のふ動のあるる宿
にて、様子を人に合て、ゆりに様くれしい新きれる女の姿様いづれい
さぐるのうちの着様でと云ふ事なれば、島のごとく女だて向
を始よりて、布の袴ーとう、清ぶ、ぶいぐうめんの一さぐきぶ、雑編編
のこ布、城壁の様子、草の様、花めいだいの様子、山、月
みるの様よりうるとも見る紙方ちゆさすれ、ゆうえ、うるされ
らぐぶ、宿南町の色所、雑様や、清ろ、いきゆ、せちさらぐくれい
ちゐ色ちされいの方へ、高、ゆ、ゆ、ゆ

女のすがたをうつしてあり
五ハくらべくらべ礼しやや

あのそれハぞうしきとぞ
たゞんいくらくのきのしたや
下男きくらくらどんかく

せあそちにはさあもわらべどばかりあるいかのかぐちつと
めあのいさうとこのしづくにはわばかりすのもわふつと
ちてかたをはとさんばかりてんるとそうとものがたり。
ゆかしあるわらはも雅も。ゆかしあるわらはもあるくのはしゆくにそち
いあとそうて亜ひわれぐも。実ぶ海さいかもしれぐふうあと雲
紙よを書くいうを書ばみてもたがひよをひかれてそたた
のもわれぐさひあて亜ひやわ浪い秋よういうを書ようく安さと
るしべ浪駅あつてはいかさかの洲深の秋ようかを居わぐもさいかても
なるまいのとれの姿をおもてかてかとをいとそれまのおくく
ろうにあてあるかへいかさんの四とそ付あひ寒をにせ一位去の秋
ようはあるの西ままとそ。ようりいのうれぐ色ようにて植ぐせにかいい
あるれいりをちうぐうのくかりのあるとの舞中ようとかぐくのあるかをうそ

はあと奥へまりさぐ扇ひるい抜ちあるこ内去事と秋の内ゆ
ゆぐんるの内をこつとあやや。縁入縄のあかりい内をりあるうれば。
かいるときくふうるぐいとうるのあるあるのの内をいせど
てあるもをれ内亜ひのかくいちぐふてぐるとをあもうんど。
うるつくまるのくをさんあしれば屋くのうまいりあにまいるはそよ。
ついるにて紙念のあり。扇者をみて成まて大まも草いかくれ
どいまぐ信徒ようるぐれ。ろうとあるどをするとてあるく月新よ
尽をぬりれさ新てかにつとあるいう内せばずいうんとそうろ
うきを。我あ月にあて元新も書ようれた。才一出るものとて
あくうしが要くい出るそうものいうあり。粉あ人の八あわがひこて。ゆり
てのあぐ名流も。書和でるけまどけばくい人並がは。ゆあがいの
得の根をいつぐれうろ。婦くうの与くくが内くいゆめくをて二深の

まんとうびいてうろ。ひとりのかまめぐろ抱いとぬうと。ぬうしのうら。
夕合ひの豆腐。夏なれば。ゆまぐつさ。出家合のろ紙。と上げ。こ云
と。ぬ角といへどもひとと。ぬうろ。ふ紙。ぬうびたくふ一緒といふ。ぬを
仮名あり。ふ。ぬうれ。ほに。ぬ付。うむすんでかの系とよび付。かもろくと
ふ。ろの。ぬ。ぬ。ぬ

[illegible]

門ぐちいてきんとうこうぞくまうぐん桶ゐ拍てゆかとうすまりて。
あかうまうまで来てつらいをいれてそいつるの杉ねやへ行あつくいせど
してうぐんい作がいひつけてゐれるあてで大きにせいそたうれど。
さぐでおあれのは法ぐんこはざらをとあ。れあわにてうきん三人ゲ
ゐてあてさきやいくいかつのいをれわさしあめぐそそれとかいこまく
ヤ付さ杉ねとゐてこいとさうつくれべあうきみぐぐうあれかはは
宮の杉ねすべがふーあもあど。稼いうぐんうめてるれべ。
は杉ねとゐてうきふたづとといいるく行でいるゐ乳といくらそ
いいれもさあくぐんあくうぐんやへくれ杉ねとやぐく行てのた。

ゐてゆれとつたぐうぐつのそれはのあ[illegible]
ゲけするぐ仕つけ者と新木とゐてたてけべ。新木洞ぐ[illegible]
さんきうくすまんよびけうくうあうぬとうるぐわらいますゆ。おあ
ぐひぐるうんとゐてんつてゐてあてあくうぐんとぐんぐるとれれぐあと。
男作いてうぐんがおいやうう れべぐんますと洞うぐいくうぐん桶引
ク、へ皇とくのふとくのあくてそ名ぐんあるく

(二) ゐるゐたがきれるあ杉ねの名法の女郎

ゐと性の陽の洞。杉と時くのさくう組わくぬくくにくのやくりんと。
ゐ高ねのおの五のくまきくると答ねべくさんれ。ぐにくんのいくと
くそのくへ宮の名甲ゐ源へのあゐのこ体とゐてげゆやくりんとう
つとぬくされ。あくん杉くとくるべげべーのねのくをと覚てゆ杉くゆ
の名とうくれ。まくうあくちたべぐそくうへいで色ねの名法と洞く

が帆とあげて、ばせを（芭蕉）いまて、日くのうんぞ。初手もいろみくまけ
れ。なぬかゆくえ雑波で名をきき位のひのれとは西にもしろへ、家のろう
まづちゃうとうんてうう。手紙の上仕わ、山ちまとうくるば、三三年のうら
よい。大福老者はいかろうと。ゆへいろうそど関係して法外と。雑波の
あげや法ろうと。生徒。そ、ばせを。けうろうあげやへ四人
と。之ゆりゆ、ひ、ゆ側のあげやに、ばせを。ぶろうとうぶ。ろうう中の出
ぶ。ろうろうれするごくぐのとうとあてうるふ。ゆ中ゆうろに位さて。
そのろうてさ里中の女郎いぞれのわろうの法ふ本のぞ。ゆ者ちゆき
ぐおくく。ろ法へい天人ぐあ法ろうてけいをいとつろいろうと係
剃りて。ばせを。行ろれと。ろう。大ばんぞ。ばせを。あろうひぞ年のみ
月をいばくの紙来きいまう。法日といってい一日ろうく。ばせをの家
と極てゆる極れぐろ。ばせを。ぶぐ。ばせを。ばせを。あげや雑波の家ろ

方へは寺の関ろう。ばせを。ばせを。法ろ。ばせを。ばせを。あげや雑波の家を
を。ばせを。いひろて。ろ会を。極位のろう。雑波ろうの家ろれぐも。さ
まうろうそちろうの一方ろうて。ろひぐれ。ばせを。山里へ出ろうと
いろうとは。れ。松ろ。ろうとも。極ろう。別法のうとうて。ぶひ。ろうとたのう
世ぞ。ぶ。働ろうて。ま。月ゆ。ろいて。一方でおろうゆ。ばせを。ばせを。ろ
ろうおて。今。世のろう。ろうろうろれ。ばせを。ばせを。ばせを

まゐりて侍るが、和女夫婦の仲、一ぢのうちきゆゑ、あいあくの因と
ゆさぐりとれのるゆゑ、中女房ねまゐあゆへ、ぬしとせうそもりまして、
尾まよくべおゐとして侍るまゐすと、ぬしろきいのぶん、えいろるまろ
らべはるぐ中女房のそんぱんぐやわらて、ありそなれと、奥ゆ中女房へ
ゐろ、ゆゑまゐうぐうのれいていふ女房とうじのてだまゐんゆうを沼るいて
侍るろ不ゐ、ゆゑまれは、ゆゑいろやうまづ西洲いつて、非はー
中つとあのゆゑかゆすうゆゑいおるづこの人ゐとうれ人ゐゆゑの毛に花
とさうゐ耳とゆゑれば、ゆゑいて、ていろうゐ、而性の先ごこゆゑ、ゆゑうの
ゆうこゆゑこれ、ゆゑれば、ゆゑうべうらうとゆゑまのゆゑ、ゆゑ中屋
ゆへ、ゆゑ、それば、ゆゑうまのゆゑを、ゆゑのうとうゆゑ、ゆゑ。
ゆゑうゆゑくいゆゑうゆゑ、ゆゑれゆゑれのゆゑ、ゆゑうゆゑれゆゑうゆゑ、ゆゑの
うゆゑうとうれゆゑ、ゆゑうとうゆゑ、ゆゑうゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、

[illegible]けて捨てゐやいぬやせねとぞ。[illegible]ときこそ。[illegible]おれけ[illegible]
[illegible]てたゞ松に眼をふうつていれば[illegible]のいそんさうふそておまへ
あつていけどもめぐるれのいとしうふる男ふるかまへこめけさ
ごやのゐ中ものとかつてこうあて作れて。おちのあまでうてれ。お招き立
いまもやこうもがそんがゆさうをあ。おつれあるやさふつるすでござ候。
あるこの男ふがゆのお金の祈でい。御川へ身を投てゐる人をこふ
るがようふうそうこんさまよりおござ分てゐに男をこうらへといて。
その家まをそそあるかぐいつあるいつぐのんでうつけそふそ
ゐる男をたゞうあ男をうげさかおにてすてゐる所も世にあまい物ふ
もあいとゐぐるけてうういつあをしてさあぐの男と松をうつを。
物ずくこなかいせ男よいござんすまいおいくやいくうふうんそこ男れ
ゆへよすーうがいふ後をうんそうしゆ男れでいるうてぴ。ゆのまをひりうこふ

一達にこうこあいのあるがあうこあいおまへのおんをうぐさんをあげまけ[illegible]
ちうこもふに特こも中活せふぴあげづうのおあがでゐれこおへをうや。
ゐけいつてすぐふうあしひ[illegible]男ふ[illegible]ぞあそんぜうこふ
ふ。[illegible]のうひでかりうするさんつうんきふうてやれおさうふいるれ
ぐおひまてふでやうほうぬまていぬーいこあれおまへのおそうよ
ぬまをあぴせと考うこ男れのうをそそれうぐふふうこうこふおゐれは
うれまーこれいぬのおあふ毒をおつこ男うれいぬ物をいそあうう
いぬまを男がまーがゐでまーぐ男とあまんで。[illegible]のすきんに新こを
に来まをこふかーんうまず毎日ござんせ。その[illegible]の五でこのんで
さんいぬ[illegible]をも怪ふけさごうぬいこあうぬ。男まいるぐ祈て
おそを人を法よかれてそうそもあうるべけさたとうれうぬけいるい
ぬてつあそそあゆこうこいるいぬけさでいるいぬ考こいぬこと

そこらいくのまくどやとおぼめ入てあるそこを見るに出家まいりのとうりけさとろねばかりのたまがらひのごんぜんて一人の男ときらてあるごとくいはゆる人は肌をとろかしけいをいはんとうかいこゝろ

きていかゝるかんまつりをこゆへ男をこの番ゐいる仏殿ばかり寄るさきていよく〻うつくしかりしに新ぬくもりをてゆつて下されと猶〻

しけさでるいとをいつめて。ぬきを手ものよすれいぶやくきこゝで

るいそ〻かしこ行のひが情をいあよわ〻さてそこうるづこそのこ〻お

もひうつくきのかわ法をうれあ。毎の日も毎の日も眠れやに世ひ

ぬいつれ世界にまよあて日の夕人一る男いひとうもあ〻

三　姫が住るけで一重のすもと所ゐ遊廓

世ろの医者ゐ同大夫ばかりにて上ひとをこうるやあるわ〻ど。

子れ〻に新ゐかんそこ乳よ言ばて夜ばせろくゐ病ばるくて。

おいにかてこうるうれかばにいろ乳のの出家命ゐそれよ同〻く。男

ろうをすばれてうつていけで。今ゐ出家するのみとわ〻どそ白のあの乳を

ろうをれ〻いあてばかくを大臣のんをとるゆくよ。ばあいひ会さひど称

ゐて。清のうをのをまをうて。ゐをるのをにばのいさうあ〻のうくゐ。

あ〻まをばの乳とゐをてつとあけるゐ。ばのをいつるるゐ。

ゐ一人のあげばうの大臣ばけ猶気つくばるの白う乳る男とうて

ようこゐはいてうのいにて猶くゐ乳ばるをるをゐ。

石いのゐくもあるのあうをあうばいうをうばいうをうとつい年をばをゐとをひ

うをず。一をとのをあひばをとをうをずのばうをいゐ人の乳乳乳猶いあばをのの

うをいばをいをばいるいをの間のをいのをのをるを白て間つけのを

猶〻ばをんて。ば猶をばうをばひて。人ばふをををゐんゐを間ゐと

をををあをを白い乳猶一重ばををまれのあをばいをゐ。ふ

他世よりの伝授でとゞめられいつぐ。をの雄てのの同利をしうかづさ。
ゝいとやまでゞはなをあるゆてゞかゝりて片塩（ゝふゝゞゞてゞそうゞ西
しくゝうゝてゝもゝとゞ男ゞでいゞゞゞ

いけども無数、大八五ぐわんぐさく車、西王のついてと三ぢ子と就ぐりわ
かりとわれ今月いかあすくとうあ和子ごのおのりにてぞてもゆおふ
されらけとぐ大まれのおさびめふやれ。よろろ後すてもまよさ。
おさやとひてるぐさあまもぬぐ物ごみよゆあて。ゆ殺宮よろ
の門人今までは行にゆ通るてい行をてあんぐそあーぐご
さとぞいおうめぐ。ぱさんの子として。ぐさんせ。さや初ぐぞ
ろとぐおひとりお家へおへるさろと。茂松い耳とそぐぐて。ろろの見
をといはあうと。まどつけうとふづーいくろれ。老の神ふぐ鼠ろう
まて安体さんにはあまさんの病がおろろさなふおひつーとを射と
ーてちさんやとおろちゆちまとてくべ男ていふ男の奥をさーて
ぞとにわいそ。お家へ行ぐこんかさるのろんの上ゆされ。おのゆう
るおけとあけて。家へ一かくとてとの伝ままづは脇神とぐぐ

天人のさぐぐもゆくやぐぬりの女房先が
ろとこいおりていおいに茶と人さ返。やくやこ病いおうる及がごか
おいいとうふいのあるがこてぐ来ますぐよびまりたーうあの八重代が。
おまへいどこと。こうこんでやぐ。ぐぬうるぬ侍へーておいせてられとの物を
わのござる白いおぐこ坊ぐあるれいば。ぬいるまいそのよいそ
尾とえていてやーてぐパ重代ようけあひ重ーうれ。ぐ物ぐど
おそ尾い物ぐやもまいるぐ。ーやあぐーあてあておうれそ。ち
わうぬ人へのはちぬ。ひーんごうやみこぐるてうろひぐ出るすぬ物うぬ
ひ慢れ坊とどさうこてトさうて。ゆ出ぐ。いちのが見ぐうぐ後後
ものぐやこ。ぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐ

大夫の祝ゑとり出といふ所でれいこむさんのふいくらぶんぷすーが男にぶ
だ〜くのるいあるぶんぷ。ふるなまの仏と同代なつつそそこごるるぶれ。こ
おさんの男にいとごでくさまのひ分でいごでんさあいぶのにとふ
大夫ぶ蝶仕そんぶだいられいぶ。ゆるの一おぶ。ふるすぶぶんと指さす
ふきうぬーのふびんぶんと大夫ふ一ふと指ぶさるん仕さ。ふ和ぶのし
あまう陶ふでいござんをあいといふれでぶりや和ぶおやまり陶ふと仕
ぶいぶるうれ。ふいゆのと。大夫ぶふるまにふさぶひ。ふ代ぶ和てある
ふへふうけでぶひとうれ和とうぶ指くのぶるあうぶ。ぶにふのんい
ぶうりきぶふいの者和いみ女ゆ和ぶ仕ふ体線のふうれのるゆと
ふ〜ふてんゆをくあぶとこてゆるふ体線のいとふゆそれのるぶい
ふうふ。ふぶんぶ。ゆもあぶのそぶゆふんぶさゆいふるぶぶと。ゆ陶ぶ
ふいふ。ふぶ。ふるふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。

えぶひょ打とけ。ひ。ぶのふいのふ。ふいねくの和へぶふて。ふびゆふ
ふんあげぶめの大仕指列のふんぶぶんぶん。大夫と。ゆふふぶふふふふと
和てゆふ家の。ふふふとぶふふふふふふれ。大夫いふんそ所とふぶ。
ふぶくふふふてゆれい。ゆふをいふのゆのぶとふふれいぶふとぶふる
ふふゆぶふふふいふ。ふのあげふくゆ和ふふゆふふ。一和ふぶ
ふ。ふの和ゆふいふ。ふゆふふ和ふゆ。ふゆふふ和ふゆ。ふゆふふ和ふゆ。
同和ゆふふゆふゆふふふのふいふゆふふ和ふ。ふふふ。ふ仕
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
同和ふふ。ふ。ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふ和いふ。ぶふ。ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
と和ふかふふ。ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

花わくに。五五の名花武蓮のつぼみ。
のべかる。百流清汁。
はなを。ゆ。ぶ。ぶ。
ハ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。
あ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ